二〇二三年一一月二一日（参加者八名）

己が葉に濃き影落とす石蕗の花　せいじ
錦繍の森に白亜の聖母像　せいじ
十字架の道行といふ石蕗明かり　せいじ
蜜柑たわわトラピスチヌの裏庭に　せいじ
小鳥来る祈りの家の庭木々に　せいじ
歩を止めよ汝が踏むところ寒蕨　ぽんこ
手入良きトラピスチヌの冬菜畑　ぽんこ
磔像へ玉の日の射す冬座敷　ぽんこ
木洩れ日の届く奈落の谷紅葉　ぽんこ
ふかふかに嵩なす大王松落葉　ぽんこ
磔像の縁へ出ませ庭小春　うつぎ
くれなゐを鎧ひてゐたり冬木の芽　うつぎ
大王松落葉句帳をはみ出せる　うつぎ
団栗落つルルドの池の水面打ち　うつぎ
黙想の庭の静けさ小鳥来る　わかば
冬薔薇真紅を秘めて蕾みをり　わかば
影絵めく木立に透けて紅葉映ゆ　わかば
紅葉影み手を広げしイエス像　わかば
とりどりの色の草の実苑愉し　小袖
照り翳る冬日にイエス像柔和　小袖
十字架の塔浮き彫りに冬晴るる　小袖
照紅葉ルルドの池は水鏡　よう子
海街へ坂なす道の石蕗明かり　もとこ

定例句会みのる選

二〇二三年一一月二一日（参加者八名）